

スクラム

1月18日(水)第89号

発行：東京清掃労働組合墨田支部 企画・総務部
東向島5-9-11墨田清掃事務所内 E-mail: seisousumida@juno.ocn.ne.jp

平成29年度計画交渉 到達点と判断

労使の主張の違いから、越年協議となっていた平成29年度作業計画・人員交渉について、ようやく当局の最終案を引き出すことができました。1月17日に開催した第5回支部執行委員会において検討した結果、協議を積み上げた成果であり、交渉の到達点とする判断をしました。当局の厳しい提案を押し返すことができたのは、交渉と日常の作業を両輪の力とし、全組合員の総力で闘ったからこそです。

小プ積載基準は現行どおり1.6トン

小プ1W減・1S増 Wの能率は3.5回に

不燃収集の直営化要求 当局「前向きに検討」

あがり時間や一部の実績を根拠とした減車・積載増、直営小プ稼働の削減、車付雇上の拡大、そして指導や機動業務の具体的な内容を巡る協議は難航を極め、一向に着地点を見出すことが



⇒ 収集・運搬・指導・機動、すべてを良質な公社サービスとして確立し、新規採用へ繋げよう

できない状況となっており、事態を打開すべく、年末に開催した支部執行委員会において、今後の交渉戦略を確認し、交渉を強化しました。内容は、①小プ積載基準1.6トンは死守する、②新規事業など具体的な根拠のない直営稼働減は受け入れない、③不燃収集を全域直営に戻すことを求める、④中長期的な視点で直営が行うべき職務の具体化と必要人員の定数化の協議を求める、⑤収集のみならず、地図作成業務管理、指導啓発、機動業務など多岐にわたる職務の「技能継承の必

要性」を認めさせる、この5点を当局に突き付け、年末年始対策期間中に積極的に検討するよう求めました。その結果、1月10日に行った予備交渉のなかで、以下の内容を熟慮を重ねた最終案として示してきました。

【作業計画(稼働人員含)】
① 積載基準はすべて現行どおりとする。
② 新大は現行どおり4S。ただし全車車付雇上とする。能率は現行どおり0。
③ 小プSは1組増とし、8S。うち5Sは車付雇上、4Sは月火水のみ配車。別にこみ量対策で月木のみ1S配車。能率は現行どおり0。
④ 小プWは1組減とし、6W。うち3Wが車付雇上。能率を引上げ3.5とする。(週を通して7回作業)
⑤ 小特は現行どおり2S。うち1S車付雇上(月木は小プ差し替え)。能率も現行どおり0。
⑥ 全体で稼働人員は現行26名から19名に減少となる。

※ 全体で稼働人員は現行26名から19名に減少となる。
※ 直営小プの稼働は1台減とし、4台とする。運転職員1名は機動業務へ配置(作業回数表は裏面に掲載しています。)

【作業計画以外の職務】
① 可燃業務管理班をあらためて設置する。
② 新規事業として、不燃ごみから蛍光管のピックアップ回収を行う。
③ 新規事業として、不燃ごみから陶磁器のピックアップ回収を行う。(後期から)
④ 高齢者訪問収集を専任

体制とし、福祉保健部との連携を行う。
【その他要求について】
① 不燃収集の直営化について前向きに検討を行う。
② 将来の直営職務と定数の具体化を視点とした協議を行う。

【作業計画(稼働人員含)】
① 積載基準はすべて現行どおりとする。
② 新大は現行どおり4S。ただし全車車付雇上とする。能率は現行どおり0。
③ 小プSは1組増とし、8S。うち5Sは車付雇上、4Sは月火水のみ配車。別にこみ量対策で月木のみ1S配車。能率は現行どおり0。
④ 小プWは1組減とし、6W。うち3Wが車付雇上。能率を引上げ3.5とする。(週を通して7回作業)
⑤ 小特は現行どおり2S。うち1S車付雇上(月木は小プ差し替え)。能率も現行どおり0。
⑥ 全体で稼働人員は現行26名から19名に減少となる。

※ 全体で稼働人員は現行26名から19名に減少となる。
※ 直営小プの稼働は1台減とし、4台とする。運転職員1名は機動業務へ配置(作業回数表は裏面に掲載しています。)

【作業計画以外の職務】
① 可燃業務管理班をあらためて設置する。
② 新規事業として、不燃ごみから蛍光管のピックアップ回収を行う。
③ 新規事業として、不燃ごみから陶磁器のピックアップ回収を行う。(後期から)
④ 高齢者訪問収集を専任

体制とし、福祉保健部との連携を行う。
【その他要求について】
① 不燃収集の直営化について前向きに検討を行う。
② 将来の直営職務と定数の具体化を視点とした協議を行う。

【作業計画(稼働人員含)】
① 積載基準はすべて現行どおりとする。
② 新大は現行どおり4S。ただし全車車付雇上とする。能率は現行どおり0。
③ 小プSは1組増とし、8S。うち5Sは車付雇上、4Sは月火水のみ配車。別にこみ量対策で月木のみ1S配車。能率は現行どおり0。
④ 小プWは1組減とし、6W。うち3Wが車付雇上。能率を引上げ3.5とする。(週を通して7回作業)
⑤ 小特は現行どおり2S。うち1S車付雇上(月木は小プ差し替え)。能率も現行どおり0。
⑥ 全体で稼働人員は現行26名から19名に減少となる。

※ 全体で稼働人員は現行26名から19名に減少となる。
※ 直営小プの稼働は1台減とし、4台とする。運転職員1名は機動業務へ配置(作業回数表は裏面に掲載しています。)

【作業計画以外の職務】
① 可燃業務管理班をあらためて設置する。
② 新規事業として、不燃ごみから蛍光管のピックアップ回収を行う。
③ 新規事業として、不燃ごみから陶磁器のピックアップ回収を行う。(後期から)
④ 高齢者訪問収集を専任

体制とし、福祉保健部との連携を行う。
【その他要求について】
① 不燃収集の直営化について前向きに検討を行う。
② 将来の直営職務と定数の具体化を視点とした協議を行う。

【直営の職務と体制を確立し新規採用を】
小プの積載基準1.6トンは死守することができたものの、Wの能率が5となり肉体的な負担は大きく増すこととなってしまいました。また、車付雇上の拡大を防げず、ついに新大がすべて直営の手を離れることとなります。しかし、減車提案を押し返し、総組数を現行どおりとさせたことは成果だと考えます。
直営の小プ稼働は最小限の1台減にとどめさせることができました。これは蛍光管のピックアップ回収等新たな機動業務を行うため受け入れることとしました。不燃収集の直営化要求に対しては、当局も必要性を認め、その実現に向けて前向きな検討を約束しました。その先駆けとして、23区初となる陶磁器の資源化(後期から)にも踏み込んだことは大きな前進です。

【直営の職務と体制を確立し新規採用を】
そして、いわゆる「清掃事業のあり方」における、直営職員の具体的な職務と人員配置についての協議も約束させることができました。不燃の直営化や新たな事業を確立しながらの協議となるため、結論を得るには複数年にまたがること想定されますが、良質な公社サービスとしての清掃事業を確立する取り組みと平行し、自らの手で直営職務の構築と新規採用獲得の枠組みができたことは大きな一歩です。
これらを総合的に判断し、全力で協議を積み重ねた成果を受けとめ、当局の最終案を受け入れることとし、中央執行委員会に諮ることとします。
指導・機動業務の具体的な内容や人員配置は提案を受けた後、あらためて報告をします。

一律拋出割合 1級職0.5%導入 技能主任以上1.0%に拡大

付与率は拡大を勝ち取る

最上位15% 上位25%

勤勉手当の成績率制度の見直しについて

勤勉手当の成績率制度は、15賞金確定交渉のなかで「一律拋出割合4%以内」で妥結をしました。それを基に、職員間の差別・分断を拡大したい墨田区立局と、そもそも成績率制度自体が不当との我われの間に具体的な協議を重ねてきました。

勤勉手当への成績率の反映は、6月の勤勉手当から適用となりますが、その成績判定期間は前年の1月1日から12月31日です。したがって、本来であれば昨年度初には決着が図られなければならぬ課題でしたが、前述のように労使の考えに隔たりが大きく、交渉は難航を極め、判定期間終了間際となった1月28日になってようやく当局から最終案を引き出すことができました。

当局的最大の目的であった「一律拋出の1級職への導入と技能主任以上の割合拡大を阻止することはいまありませんでしたが、それぞれの付与率拡大を勝ち取ることができました。これによって、中位者と最上位・上位者の格差がこれまでより縮小することになります。これについても第5回執行委員会などで到達点と判断しましたので、本部機関紙に語ることにします。

ほとんどの職員が現場で働く我われ清掃職員を正しく評価することは不可能です。組内員間の差別・分断を縮小する取り組みとともに人事評価制度そのものの徹底を求める交渉を引き続き強化していきます。

勤勉手当の成績率制度 現行と改正後の比較 (支部作成)

		現行		改正後 (H29.6~)	
		技能主任以上	1級職	技能主任以上	1級職
付与率	最上位	10%以内	10%以内	15%以内	15%以内
	上位	20%以内	20%以内	25%以内	25%以内
配分原資		一律拋出0.5% 扶養手当相当額 下位、最下位からの拋出	一律拋出なし 扶養手当相当額 下位、最下位からの拋出	一律拋出1% 扶養手当相当額 下位、最下位からの拋出	一律拋出0.5% 扶養手当相当額 下位、最下位からの拋出



平成二十八年年度退職者送別会

三月四日(土) 十六時三十分

分室三階休憩室

額額明さん、豊田吉三さんが定年退職、斉藤政実さん、武田正敏さん、岡田正夫さんが再任用を満了されます。長年のご労苦に感謝し、再出発を祝う会を開催します。積極的な参加をお願いします。

平成29年度 可燃収集別作業回数表 (支部作成)

直営 (19名)	組名(仮)	車種	作業回数						
			日	火	水	木	金	土	
	1	小プS	6	6	6	6	6	6	6
	2	小プS	6	6	6	6	6	6	6
	3	小プS	6	6	6	6	6	6	6
	4	小プW	7	7	7	7	7	7	7
	5	小プW	7	7	7	7	7	7	7
	6	小プW	7	7	7	7	7	7	7
	7	小特S	6	6	6	6	6	6	6
車付雇上	8	新大S	4	4	4	4	4	4	4
	9	新大S	4	4	4	4	4	4	4
	10	新大S	4	4	4	4	4	4	4
	11	新大S	4	4	4	4	4	4	4
	12	小プS	6	6	6	6	6	6	6
	13	小プS	6	6	6	6	6	6	6
	14	小プS	6	6	6	6	6	6	6
	15	小プS	6	6	6	6	6	6	6
	16	小プS	6	6	6	6	6	6	6
	17	小プW	7	7	7	7	7	7	7
	18	小プW	7	7	7	7	7	7	7
	19	小プW	7	7	7	7	7	7	7
		20	小特S	6	6	6	6	6	6
		21	小プS	6	6	6	6	6	6

	日	火	水	木	金	土
合計回数	新大 16	16	16	12	12	12
	小プ +5 102	-1 90	-1 90	+6 -78	66	66
	小特 6	12	12	6	12	12

処理可能量	日	火	水	木	金	土
新大	38.4	38.4	38.4	28.8	28.8	28.8
小プ	163.2	144	144	124.8	105.6	105.6
小特	5.4	10.8	10.8	5.4	10.8	10.8
合計	207	193.2	193.2	159	145.2	145.2

1面の解説表

稼働14・週休代替3・予備2
=必要人員は19名

小プWは能率3.5(週を通して7回)

新大は4Sすべて車付雇上、うち1Sは週前半のみ配車

車付雇上の小プ5Sのうち4Sが週前半のみの配車

車付雇上の小特は今年度同様、月・木は小プに差し替え

ごみ量対策で月・木のみ小プ1S配車

赤字は今年度計画との差し引き

積載基準はすべて変更なし

積載基準	新大	小プ	小特
積載基準	2.4	1.6	0.9

能率	新大	小プ	小特
能率	S4.0	W3.5 S6.0	S6.0